

## 平和で豊かな暮らし

能生中学校 2年2組 齋藤 碧波

私は、8月5日から7日までの3日間、広島派遣研修に参加し、広島へ行きました。そこでは、戦争や原爆の恐ろしさを学びました。

1日目の大和ミュージアムでは戦艦「大和」の歴史を学習しました。大和ミュージアムには10分の1のサイズで再現された戦艦「大和」の模型がありました。特攻兵器の「回天」というものも展示してありました。「回天」とは、水中用の爆弾「魚雷」をもとにして作られた兵器で、人が中に乗り、体当たりをするという私たちには考えられない兵器です。近くには実際に兵器に乗った男性が残した家族へのメッセージがあり、聞くことができました。メッセージには「元気で征きます。」と力強い声で残されていました。

2日目は平和記念式典に参列しました。式典には多くの方が参列していて、平和を願う人がたくさんいるということを実感しました。その後に、平和記念公園を見学しました。平和記念公園には原爆の子の像や原爆ドームがありました。原爆ドームは、当時のまま残されていて、崩れている壁や落ちているがれきがあり、原子爆弾の怖さを感じました。平和記念資料館では、被爆をして負ったけがや焼け野原となった広島の写真などがありました。中には、当時、子どもが着ていた服や真っ黒に焦げた芋の弁当などがあり、原子爆弾の怖さを感じました。その後に、被爆体験講話を聞きました。原子爆弾は爆心地から2km離れた場所でも建物が焼かれ、全壊全焼区域となりました。たくさんの人々が亡くなり、今生きている方々も後遺症で苦しんでいます。1つの原子爆弾で多

---

くの人の命や日常を奪った状況は、私が想像していたもの以上に恐ろしいものだと分かりました。

3日目は、原爆で倒壊し、外観復元や内部改装を行い、現在は歴史資料館となっている広島城へ行きました。建物の中では昔使われていた刀や当時の部屋が再現してあるものを見ることができました。

この3日間、戦争や原爆の恐ろしさや平和で豊かな暮らしについて学びました。被爆者の平均年齢が 84 歳を超えている今、現地に行き、直接学んだ私たちが、より多くの人に語り継いでいかなければなりません。多くの方が犠牲になり日常が一瞬にして奪われ、地獄のような苦しみを経験した人々の思いや訴えを忘れずに、平和で豊かな暮らしを創っていきたいです。

---